

第2回鳴門市地域福祉計画審議会会議録

日時：平成29年9月28日13時30分から15時30分

場所：市本庁舎3階会議室

出席者：(審議委員18名中14名、敬称略)

徳島大学大学院医歯薬学研究部 教授 白山 靖彦

鳴門市医師会 副会長 高麗 敬司

鳴門市ボランティア連絡協議会 会長 太田 晴清

鳴門市地区社会福祉協議会会長会 会長 大黒 三義

鳴門市民生委員児童委員協議会 会長 松本 久和子

鳴門市子どものまちづくり推進協議会 会長 内藤 隆

鳴門市老人クラブ連合会 会長 小林 弘明

鳴門市婦人連合会 会長 矢野 壽美子

鳴門市身体障害者連合会 会長 吉田 繁子

徳島保護観察所 鳴門板野保護区 保護司 元木 カヨ子

鳴門市自主防災会連絡協議会 会長 小川 泰範

鳴門市 医療介護福祉統括官 三宅 敏勝

公募市民 日下 正幸

徳島県社会福祉協議会 次長 戸出 浩昌

〈事務局〉

鳴門市 荒川健康福祉部長、天満福祉事務所長、田浦社会福祉課長、他3名

鳴門市社会福祉協議会 林事務局長、吉井事務局次長

傍聴者：徳島県社会福祉協議会 1名 鳴門市社会福祉協議会 1名

会議次第

1 開会

2 委員長挨拶

3 議題

(1) 鳴門市地域福祉計画及び鳴門市地域福祉活動計画策定の経過について

(2) 鳴門市地域福祉計画について

(3) 鳴門市地域福祉活動計画について

4 意見交換

5 閉会

会議資料一覧

- 【資料 1】 鳴門市地域福祉計画審議会委員名簿
- 【資料 2】 鳴門市地域福祉計画及び鳴門市地域福祉活動計画策定の経過について
- 【資料 3-1】 鳴門市地域福祉計画資料 目次案
- 【資料 3-2】 鳴門市地域福祉計画 概要版案
- 【資料 4】 鳴門市地域福祉活動計画資料
- 【参考資料】 住民座談会（第 1 回～第 3 回）・結果

会議経過

- 1 開会。
- 2 新たな委員 2 名について委嘱状を机上交付。
- 3 司会より委員の紹介、健康福祉部長以下事務局出席者の紹介。
- 4 委員長挨拶。
- 5 議題（1）について、事務局より資料 2 の説明後、審議、意見交換を行った。
- 6 議題（2）、（3）について、事務局より資料 3-1、資料 3-2、資料 4 の説明後、審議、意見交換を行った。
- 7 閉会。

主な質疑等、議事の概要は以下のとおり。

◆議題（1） 鳴門市地域福祉計画及び鳴門市地域福祉活動計画策定の経過について

地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定の経過について事務局から説明。

委員長

ただいまの事務局からの説明を受けて何か意見等ありますか。

委員

私も地域座談会に参加させていただいているが、参加者は高齢の方が多い、若い方の参加者を増やすことはできないだろうか。

委員長

地域座談会参加者に高齢者が多いというのは当初から想定していた課題ではあった。開催日時等を工夫して、若い世代、子育て世代にも多く参加していただきたい。

たが、ご指摘のとおり、なかなか難しい課題となっている。何かいい方法はあるか。

委員

既存の地域コミュニティは希薄化してきており、声かけ・周知をしても案内が届きかねる事もある。既に声かけしてくれていると思うが、学校関係、PTA等に声をかけ、参加を促すようにしていくのが良いのでは。

委員

地域座談会をする上で、北灘地区や大麻地区など範囲が広い地区があるが、開催するにあたっての工夫が必要ではないか、例えば、大麻地区では堀江公民館が開催場所となっており、地理的に板東地区の方が参加しにくくなっていないか。

委員長

ご指摘のとおり大麻や、北灘は地理的に非常に広い、ただ、地区社協の単位としてはこれが1つであり、広いから分けるということには至っていない。委員のご意見を踏まえて、座談会開催会場については検討の余地があるだろう。

委員

地域座談会は13地区社協単位で住民意識の課題を把握していると思うが、自治振興会との関わりがあまり無いように感じる。地区によっては町単位でも住民の課題は違う。せっかく活動計画を作るので、もっと小さい単位での課題抽出を行って欲しい。

委員

自治振興会の役員をしているが、第1回から地域座談会に参加させていただいている。地域によっては自治振興会も関心を持って参加している。地域座談会に関しては、内容をもう少し、みんなが興味を持つような内容にしてみてもどうか。

委員

地域座談会を始め、市等が行っている事業、サロン等に出てくる人というのは、だいたい同じ人が出てきている。問題は、こういう場へ出てこれられない、狭間の人の意見が重要であると思う。そういった人たちの意見をどうやって吸い上げ、計画に反映していくか、考えて行って欲しい。

委員長

参加者の顔ぶれがほとんど同じである、ということはどこの地区でも共通であると思うが、こういう場に出てこないということもそれ自体がその人の意思表示（ニーズ）だと考えることができる。また、地域座談会に出てきている人たちの関係を緊密により強固にするということによって、様々な施策、例えば防災や、空き家、孤立の問題に対して有効ではないかと思いつながら、進めている。

全住民の意見の吸い上げるというのは現実的には難しい。

委員

座談会参加者の年齢の割合はどのくらいのものか、高齢者が多いのではないかと。地区社協で声をかけても結局は自治振興会等の役員等に話しをして出てきてもらっている。そうすれば、自ずと参加者は高齢者に偏ってくる。もっと若い人への参加を考えるなら、声かけして参加がないなら、仕方がないではなくて、何で参加してくれないかを検討して必要あればワークショップの方法を変えていく必要があるのではないかと。

委員長

委員がおっしゃるとおりワークショップの方法は考慮の余地はあるかと思えます。ただ、投票行動の例をとってみても、投票に行く方はどうしても高齢者に偏っていて若い方はあまり行かない、こういった投票へ行くのと地域座談会への行くことの若い方の行動心理は同じような気がします。このような課題について考えながら進めていけたらと思っています。

地域座談会参加者の平均年齢は60歳くらいだと思いますが、集計等がありますか。

事務局

第3回座談会の参加者の年齢の割合について、60歳未満の参加者は全体参加者の約25パーセントとなっております。

◆議題（2） 鳴門市地域福祉計画について

◆議題（3） 鳴門市地域福祉活動計画について

一括して審議を行う。

議題（2）、議題（3）についてそれぞれ事務局より説明。

委員長

地域福祉計画、地域福祉活動計画ともに地域座談会からでた課題に対しての計画であるため、課題の整理については同じようにしたほうが良い。

今の事務局からの説明を受けて何かありますか。

委員

地域座談会に実際に参加した感想として、実際の住民座談会からのボトムアップ方式で上がってきた意見が課題となり計画策定につながるという方式は、上からの押し付けでは無いということが実情にマッチしており、うまくいっていると感じております。

委員

地域福祉計画について、課題の解決役割をどこが中心になって担っていくかという事の精査を行ってほしい。実際に（市）行政が担う役割は多いはず、社協が担う役割をもう少し、細かく選別する必要がある。

地域福祉活動計画について、課題に対する行動目標については、今すぐできるものについては計画策定を待たずしてもできる。すぐにやるべきことは今すぐにでもしてほしい。

委員長

解決役割については、市のほうで、もう少し優先順位付けや、精査を行い、整理するようになります。

委員

制度の狭間の問題であるとか多問題家族への対応等の問題、新たな地域支え合いの必要性等の課題を解決するために国のほうも地域包括ケアの推進の必要性を示している。地域福祉計画等でもその部分は考えていると思うが、市社協、民生委員等の活動などの推進により、困難な問題が少しでも解決できるような、計画内容として欲しい。

委員

確認ですが、施策の展開のなかで、今般の社会福祉法改正により、市町村地域福祉計画の中に入れるべき内容として地域における高齢者の福祉、障害者の福祉、児童の福祉その他の福祉に関し、共通して取り組むべき事項が追加されている。その対応はどう考えているのか。

事務局

委員ご指摘のとおり、法改正により入れるべき項目として追加されているため、鳴門市地域福祉計画においてもそれらの項目についての内容を踏まえて策定するよう検討しております。

委員

地域福祉計画のなかで市・地域・社協が一体となって災害時要援護者（避難行動要支援者）対策が施策としてあるが、この事業自体は昔からやっているが、実際に地域・民生員・自主防災組織がどこまで情報共有できているかわからない。

もう一点として、地域福祉（活動）計画を策定する趣旨はわかるが、実行していけるような地域の体制が整っているのか懸念される。地域で誰が実行していくのか、私自身、地域の自治会、地区社協、防災組織等に顔を出しているが、計画を地域でやるとなったときにできるのか難しい。また、市・社協に関しても同じように計画実行を進めていける人員体制が整っているのか。体制整備をじっくりやってから計画策定をすればいいのでは、その辺も考えて欲しい。地域にさせるなら、どこがするのか、できるところがあるのか心配です。

委員長

委員の気持ちはわかります。地域自治振興会、町内会、自主防災会それぞれの組織ですでに活動自体たくさんある。

今回策定する地域福祉計画は福祉計画の上位計画であるので、いままで縦割りで下ろされてきた、様々な事業を効率化できるようになると思うのでそこはご理解いただきたい。

委員

私はなかなか座談会には参加できていないのですが、日中仕事している世代の参加はやはり難しい。逆に若い世代の人はどのような人が参加してくれているのか、調べてみれば何か方法があるかもしれない。ただ、現実問題として若い世代が参加出来ないとなると、地域活動を担っていくのも常に参加している高齢の方になってくるのではないか。

委員長

地域座談会に参加してくれている約25パーセントの60歳未満の方には医療福祉従事者が多いように感じる。企業勤めの方の参加に対してどうアプローチしていけばいいのかを計画の中に入れてもいいのではないかと、組織づくりとして考えていけばよい。

委員

地域座談会の日程は、できるだけ多くの方が参加できるように土曜日や日曜日にも日程を組んでいると思うが、実際に住んでいる地区以外の地区の座談会に参加するのもいいのでは。一度でも参加すれば会の雰囲気が出る。

委員

最近地域に転入してきた人のところへ行く機会があった。若い世代の人は声をかけても地域に入ろうとしない、町内会にも入らない人が多くなっている、地域活動が煩わしくなっている人も少なくない。そういった人を地域に参加させるにはなかなか難しいと思うが、市や県や教員の職員が退職された後こういった地域活動にもっと参加して欲しいと思う。

委員

座談会に参加して、そこで地域の話をするなかで、あその人は今こうしているとか、最近見ないから心配だとか、座談会のような会に出てきて話をする事自体が地域活動になっているのではないかと感じている。

この活動は今後も地道にやっていけば良いと思う。急には変わらないが、やり続けることで地域活動は進んでいくと思います。

委員

厳しい意見をいただいておりますが、地域福祉計画は鳴門市の福祉を考える上で重要な計画となっております。このたび初めて市・社協が一緒になって地域に入らせていただき、貴重な意見をいただきながら進めております。委員、委員長にもありましたが、国の動きも地域共生社会の実現に向けてという事で、介護保険制度はじめ、地域で一体となった地域共生サービスの仕組みづくりが進んできております。計画作りに関して地域の意見をどこまでまとめられるか十分に検討してまいりたい。また市、地域・地区社協、市社協それぞれ役割、立場が違うと思いますが、それぞれ連携して地域のネットワークとして構築していけるよう、計画策定に向けて進めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひしたい。

委員長

座談会には徳島大学の学生も参加している、学生たちは最初は戸惑いもあったが、回数を重ねていくうちに、参加意欲が増してきている。

実際、座談会に学生が参加することで、学生たちが将来地域活動を担う一員になってくると思う。このような活動を長い期間かかったとしても地道に続けていくことが重要である。

計画に関しては今後、目標や施策について、優先順位や、担うべき所の精査を行ってまた次回お示しできたらと思います。本日はどうも貴重な意見ありがとうございました。

事務局

第3回審議会についてはスケジュールのとおり平成29年11月中旬を予定しております。

上記、会議録について相違ないことを認め署名する。

平成 年 月 日

平成 年 月 日

氏名 _____ 印

氏名 _____ 印